

日 時：平成 28 月 11 月 2 日（水）18 時 30 分 ～20 時 10 分

場 所：新山地区担い手センター

対象地区：新山・蒲田

参加人数：18 名

■意見交換

内 容
<p>○町会要望事項の早期実現について (市民からの要望、質問)</p> <p>今年の町会要望事項でも出しているが、八幡崎までの防雪柵の設置は 2 年連続、また、堰に蓋を掛ける要望は 5 年位連続で要望している。</p> <p>防雪柵については、歩道が東側にあり吹雪が西側から来るため、防雪柵を西側に設置しても効果が薄いのではとのことであるが、他自治体でもそのような場所があり、一定の効果はあると感じている。</p> <p>堰へ蓋を設置する要望については、要望している路線は交通量が多く、これまでに死亡者も出ている。お年寄り、子どもが転落すれば大変である。</p> <p>昨年の要望事項への回答内容を見ると、今後補助事業の活用を含め長期総合計画で検討していくとのことであるが、何年後にはできるという回答を示してほしい。</p> <p>(市の回答)</p> <ul style="list-style-type: none">・防雪柵については昨年、補助事業の活用を含め、長期総合計画の中で検討する旨を回答している。現在も活用できる補助事業について、県とも相談しているところである。設置延長が 350m、費用が 5,300 万円ほどであり、市単独での設置は難しい。また、設置した場合には、その管理費として毎年 100 万円ほどの経費がかかる見込みである。補助金を活用するためには、まずは計画に載せなければならず、現在の計画変更は平成 31 年からとなっている。よって、平成 30 年までには、補助事業での実施の可否について回答ができると思う。生徒、児童の通学路となっており、市としては実施していきたいと考えている。・該当の堰は深さ 1m ほどあり、転落すると怪我をする恐れがある。用水路として使用されており、管理者である改良区と協議をしたところ、蓋を掛けた場合、泥上げ等の管理が大変とのことであった。また、蓋を掛ける場合には、大型側溝に入れ替える必要があり、事業費は 1m 当たり 10～15 万円ほどは必要となる。蓋をかける方法以外では、ガードパイプの施工も可能なので、この方法でも良いのであれば、再度、改良区、町会と協議をしていく。
<p>○側溝の流れ改善について (市民からの要望、質問)</p> <p>蒲田地区の旧 102 号線沿いに、側溝が詰まり水が流れていない場所がある。県道、改良</p>

区との関係もあるかと思うが、水が流れるようにしてほしい。

(市民からの要望、質問)

改良区の用水堰は、廃堰になっていると思う。小学生の子どもたちは、下校時に堰で遊んでいたり、また土管をくぐって遊んでいたり危険である。子どもの安全、通行する人の安全のためにも手立てをしてほしい。

(市の回答)

- ・改良区の用水堰については、改良区と協議をしていく。危険なところは、早く手立てを打っていききたい。現場を確認させていただきたい。

○町会要望事項について

(市民からの要望、質問)

町会要望でも出している道路について、長期総合計画の中でとの回答であった。何年も先となれば、地権者の状況も変わってくることから早期に実現してほしい。長期総合計画で検討していくとの回答ではなく、何年度には実施できるという回答を出してほしい。

(市の回答)

- ・現在、第2期の長期総合計画を策定、見直しを行っており、その中で、例えば側溝整備に1億円、道路のオーバーレイに5千万円などと決め、事業を実施している。
- ・昨年、町会要望として出された件数が97件あった。これら全てを実施できれば良いが、難しいところである。現場を確認し、緊急性の高いものから実施をしていく。また、これらの他にも突発的に対応しなければならない案件も出てくる。要望をいただいた道路についても、来年実施できるなどとは確約できない。

○人口減少社会に対する市長の思い

(市民からの要望、質問)

小学生、子ども達が減っている。まちをつくっていくためには人が欠かせず、人口を増やせばいいのだが難しい。この現状に対する市長の思いを聞かせてほしい。

(市長の回答)

- ・平川市のみならず、全国的に人口が減っているなかで、大都市に人口が集中している。学校を卒業すれば、都市部に出て行ってしまふ。合併時には36,000人いた人口が現在は32,000人を下回っている。10年間で4,000人が減ったことになる。平川市の出生数は年間で200人前後である。結婚する年齢も遅くなってきている。出会いの場を市でも提供しようと事業を行っているが、弘前市とも連携を取りながら出会いの場を提供していきたい。市では来年度、メグハグ事業というものを実施するが、町会からも情報提供いただきながら結婚する人を増やしていきたいと考えているので、町会のご協力をお願い

する。

- ・子育てしたい、しやすい地区ナンバーワンを目指している。県内のほとんどの自治体で保育料を第3子から無料としているなかで、平川市では第2子から無料化している。年間8,000万円ほどの費用がかかるが、1人目を産んだ人が2人目も産みたいという思いを持っていただくためにこの施策を行っている。市長就任後、子育て支援課を設置し、職員7人態勢で子育て支援の仕事を行っている。平川市は、子どもを育てやすいところだということを県内外に発信していきたい。
- ・東洋経済新報社の住みよさランキングというものがあるが、平川市は県内で1位。北海道、東北ブロックでも第6位という評価をいただいた。評価対象に、持家、安心度、利便性、快適度、富裕度と5つの指標があるが、平川市は富裕度が低いという現状である。このランキングでいくと、平川市は住みやすいという評価をいただいている。
- ・平賀地域で弘前市に近い地区は、新しい住宅が建ってきている。さまざまな施策を行いながら、平川市の人口を増やしていきたい。先般も建築物の規制緩和区域の拡大を行ったところである。

○耕作放棄地等の対策について

(市民からの要望、質問)

耕作放棄地や空家が増えてきているが、現状と対策について教えてほしい。町会でも美化運動を行っているが、手を付けられない箇所がある。宅地の木は伸び、アメリカシロヒトリも発生している。

個人、町会で所有者を特定できない場合には、市で調べてくれるか。住人が亡くなった場合には、相続などのこともあり個人等では所有者を特定できない。

(市の回答)

- ・耕作放棄地の状況については、農業委員会、農林課で把握している。しかし、耕作放棄地とはいってもあくまで個人所有であり、行政としても手を付けられない。持ち主の了解を得て、町会で切るなどしてほしい。行政で全てを行うのは無理である。
- ・一昨年行った空家調査では、市内の空家は423軒あった。今年は1,460件を調査している。修理し使える空家、また特定空家などを調べているところである。道路等に邪魔をしている場合には行政で対応できるが、そうでない場合には手を掛けられない。
- ・空家、空地については、都市計画課で調査をしている。尾上地域の調査が終了し、所有者に対し、空家をどのようにしていくか意向調査を行っている。回答を集計し、利用できるものは利活用を、また利用できないものは指導等を行っていく。調査票を所有者に対し送付しているが、送付段階で宛名なしで返送されたものもあり、再調査を要する事案もある。
- ・農地について、耕作放棄されアメリカシロヒトリが出ている状況であれば、農業委員会、農林課で指導をしていくので、情報提供いただきたい。尾上地域の窓口は、尾上総合支所の市民生活課で相談を受け付けている。電話でもいいので連絡を貰えれば、市役所か

ら所有者に連絡をする。

- ・東京都在住者などに連絡をとった実績がある。個人情報なので、所有者の情報は一般には出せない。市役所を通しての対応となる。
- ・空家については、ごみ問題、虫が発生するなどの事案が発生している。この場合についても市役所から所有者に連絡をとり、対応について話をしている。死亡等により追及しても辿り着けない場合もあるが、まずは市役所へ連絡をいただきたい。

○市民運動会等の実施について

(市民からの要望、質問)

町会が一つとなる事業が減ってしまった。ねぶた運行、納涼祭などは今も実施しているが、以前は市民運動会があり、子供会、婦人会も一緒になって集まる機会があり、活気があった。市が主体となって、盛り上がる事業を行ってほしい。市全体を対象とした開催が難しいのであれば、旧町村単位でもいいので実施してほしい。

(市の回答)

- ・町会の役員、公民館活動を行ってきたなかで、運動会の時には選手集めに各家庭を回った経験がある。市民運動会が無くなったのは、町会長から選手集めが大変、止めてほしいとのことが理由としてある。何かしら、市民皆が集まる場が必要だと思っている。来年、新しい運動施設ができる。単なる競技を行うのではなく、レクリエーションのようなイベントができないものかと考えている。小・中学生は徒競走、大人は楽しみながら行える競技をやればと考えている。町会役員の皆さんには苦労をお掛けすることになると思うが、市民が集まる場は必要だと思う。

○空家の有効活用について

(市民からの要望、質問)

空家を1~2万円でもいいので貸し出ししてはどうか。空家の所有者としては、安い家賃でも貸し出した方が良くと思う。空家を利用することで、人が移住する。また、人が移住することで子供も産まれると思う。

(市の回答)

- ・使える空家については、使った方が長持ちすることからも、利用した方が良い。リフォームしなければならない空家もあるが、空家の中にはそのまま使えそうな空家もある。現在空家の調査をしているので、所有者の意向を確認しながら対応を検討していく。

○他市町村との連携について

(市民からの要望、質問)

平川市として、近隣の弘前市や黒石市と何かを一緒に行うという構想はあるか。

(市の回答)

- ・弘前市を中心とした圏域で、消防、医療、ごみ処理を行っている。定住自立圏協定を結んでおり、周辺市町村とも連携を取っている。
- ・観光面では、田舎館村の田んぼアート、黒石市のこみせ、平川市の盛美園を周遊する津軽南の観光ルートを作り、広域での観光を発信している。弘前市の瑞樂園、黒石市の金平成園、平川市の盛美園と津軽地方には大石武学流の庭園が数多くある。この3市で先般、大石武学流サミットを開催したところである。盛美園は国指定の庭園となっており、国の補助を受けながら5年計画で整備を行っているところである。市としても、観光資源を大事にしながら誘客を図っていきたい。

○長寿福祉大会について

(市民からの要望、質問)

長寿福祉大会への参加者が、今年も少なかった。年を追うごとに少なくなっていると思う。交通手段がなく、行きたくても行けないという声を聞いている。地域ごとに開催する方法もあるのではないか。また、バスを出すなどの方法もあるのではないか。細かいことに気を使って、行政運営をしてほしい。

(市の回答)

- ・民生委員などの役職の方は参加されているが、参加者数が少ないということは感じている。来場者に好まれるようなアトラクションの開催など、多くの市民に来場していただける方法を考えていきたい。
- ・一般の人も参加できるが、年々参加者が少なくなり寂しい思いがあった。現在、老人クラブの取りまとめを社会福祉協議会にお願いしている。碓ヶ関、尾上地域にはバスを出し送迎しているが、平賀地域にはバスでの送迎はしていない。バスも限られた台数のなかでの運用となるのに加え、さまざまな地区を何度も回り、送迎することは時間的にも難しいところである。
- ・来年は、文化センターが改修工事に入るため、別会場での開催を予定している。担当課としても、多くの来場者をお迎えし盛大に開催したいという思いは持っている。

○鳥獣被害について

(市民からの要望、質問)

この地域はカラスが非常に多く、農作物への被害も出ている。隣接市町村の町会放送では、カラスの駆除をするという放送が流れていた。一か所で駆除し追い払っても、その周辺の地域で被害が発生する。周辺市町村合同で、駆除対策をするなどの話し合いは持っているか。思い切った有害駆除を行わないと被害は無くならないと思う。

(市の回答)

- ・カラスには、りんごなどに穴を開けられ非常に困っている。一時、弘前市で個体数を減

少させたが、また元に戻ったとも聞いている。少しずつでも個体数を減らしていくしかないと思う。

- ・弘前市を中心に会議を開き、情報交換は行っている。弘前市では、フン害がひどいことから個体数などの調査を行っているが、一か所で追い払えば別な場所に飛んでいくことから、いたちごっこである。農林課で農作物への被害対策はやっているが、個体数を減らしていくしかない。

○移動（臨時）期日前投票所について

（市民からの要望、質問）

前回の参議院選挙の際に、臨時移動期日前投票が行われた。これまでの選挙では、新山町会の人、日沼まで行かないと投票できなかったが、新山まで移動投票所が来てくれたことで、移動手段のない人は非常に助かったと話していた。3時間という短い投票時間ではあったが、50人ほどの投票者がいた。今後も、このような取り組みは続けるか。

（市の回答）

- ・今回の参議院議員選挙から18歳以上が投票できるということもあり、投票率を向上させる施策として、選挙管理委員会で出前する形での投票所を実施した。また、イオンタウン平賀でも期日前投票所の開設、また、投票日当日には共通投票所を開設した。共通投票所の開設は、全国でも4市町村しかなかった。選挙管理委員会では、今後も続けていきたいとのことである。市としても投票しやすい環境づくりを図っていきたい。

○さらなる市町村合併について

（市民からの要望、質問）

町村合併し平川市が誕生したが、さらなる市町村合併は考えているか。人口がこれだけ減っていくなかで、平川市は自治体として維持できるのか。

（市の回答）

- ・現在、さらなる市町村合併については考えていないし、他自治体からも、そのような話が出ていない。
- ・弘前市を中心とした広域連携の形でさまざまな事務を行い、広域連携の中で進めていきたいと考えている。ごみ処理については、尾上地域は黒石市のごみ処理施設に、平賀、碓ヶ関地域は弘前市のごみ処理施設で処理している。また、消防事務などについても広域で連携し行っているところである。連携できるものは、連携しながら進めていく。
- ・平川市として誕生し、平川市として10年歩んできた。平川市を良くしていくため、力を注いでいるところである。

○学校の統廃合について

（市民からの要望、質問）

現在、平川市に児童生徒は何人いるか。人口が減少し、子ども達も減っている。スクールバスを出しても、学校を統廃合した方が良い。尾上地域の小学校は、1校あれば良いと思う。

(市の回答)

- 年間で 200 人ほどしか出生していない中で、市内には小学校が 9 校、中学校が 3 校ある。子ども達がどんどん減っていけば、今後、学校の統廃合を検討しなければならなくなる。
- 広船小学校が、平賀東小学校に統合した際には、当初は地元の人たちも統廃合には反対していたが、児童数が減り複式学級となれば、5 年、6 年の学年になると勉強が遅れてくることが懸念され、統廃合を承諾したということがあった。
- 小学校は、尾上地域に金田小学校、猿賀小学校の 2 校、平賀地域に 6 校、碓ヶ関地域に 1 校あるが、将来的にこの数を維持できるかは難しいところである。学校の統廃合を検討する際は、地域の人々の声を聞きながら進めていくが、尾上地域の小学校 2 校を 1 校にとはならないと思う。